

昭和50年度畑作関係

除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

当協会委託の昭和50年度畑作関係除草剤の試験成績中央検討会は、昭和50年12月17～18日の2日間、東京農林年金会館（東京）において開催された。その結果の概要をここに紹介する。

昭和50年度に供試された畑作関係除草剤は、定性スクリーニングに4薬剤、作用特性試験として大豆8薬剤、小豆5薬剤、菜豆4薬剤、とうもろこし1薬剤、落花生1薬剤、てん菜1薬剤、その他比較試験2薬剤が実施された。適用性試験は計36薬剤が供試され、その試験結果に基づく判定結果は第1表のとおりである。さらに「実用化」「実・継」と判定された薬剤の使用基準は第2表のとおりである。

なお、定性スクリーニング、作用特性試験に供試した薬剤名は、次のとおりである。

I. 供試薬剤

<定性スクリーニング>

0-330乳, BAS-3510液, SL-501

水和, SL-502水和.

<作用特性試験>

1) 大豆

BAS-3510水和, NTN-87水和, NP-46乳, TH-68乳, SSH-42乳, SSH-41水和, DAC-893水和, S-28乳.

2) 小豆

S-28乳, NTN-87水和, SSH-42水和, SSH-41水和, DAC-893水和.

3) 菜豆

S-28乳, SL-55水和, NTN-87水和, DAC-893水和.

4) とうもろこし

SSH-41水和.

5) 落花生

S-28乳.

6) てんさい

S-28乳.

7) 比較試験

NP-40乳, NP-42乳.

II. 対象作物・薬剤別判定結果

第1表 昭和50年度畑作関係除草剤実用化判定表

区 分	実 用 化	実 ・ 継	継 続	継 ？	中 止
1) 大 豆	SKH-01水和	B-3015・P粒 S-28乳, トリフルラリン + リニュロン	ANK-553乳 NP-46乳 NP-40乳 SSH-36液	SL-55水和	

区 分	実 用 化	実 ・ 継	継 続	継 ？	中 止
(つづき)			TH-68乳 トリフルラリン+DNBP		
2) 小 豆		ANK-553乳 SKH-01水和	DAC-893水和 プロメトリン・アラク ロール乳 SSH-36液 トリフルラリン+DNBP	SL-55水和	
3) 菜 豆	ANK-553乳		BAS-3510水和 プロメトリン・アラク ロール乳 SSH-36液 トリフルラリン+DNBP トリフルラリン+リニエロン		SKH-01水和
4) 落 花 生	NTN-80水和	ANK-553乳 B-3015 P粒 NK-049・P水和 プロメトリン・アラク ロール乳 SD-11831 微粒			
5) 甘 し ょ		B-3015・P粒 NTN-80水和	NP-40乳 NP-42乳 NK-049水和		
6) とうもろこし	アトラジンFW 500乳		SSH-41水和		
7) てん菜直播			BJL-119水和 SL-38+PAC		
8) てん菜移植	HSW-4901水和	U-67水和	BJL-119水和 SL-38+PAC		
9) こんにゃく	バラコート液	MCC粒 バラコート液+トリフ ルラリン乳			
10) さとうきび		NTN-70水和	DPX-3674水和 VEL-26水和		

III. 実用化判定薬剤使用基準

第2表 昭和50年度畑作関係実用化除草剤使用基準

区 分	薬 剤 名	剤型	判定	処理方法	処理時期	使用量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
1) 大 豆	SKH-01	水和	実	土 壌	播種後 ～出芽前	⊕ g/a 15～ 20	全土壌	寒 地	イネ科, ツユク サに効果が劣る。
	B-3015-P	粒	実・ 継	土 壌	播種後	⊕ g/a 400 ～ 600	火山灰土	寒地を除 く全域	
	S-28	乳	実・ 継	土 壌	出芽前	⊕ g/a 20 ～ 40	全土壌	寒 地	
	トリフルラリン + リニャロン	乳 液	実・ 継	土 壌	播種後	⊕ g/a 20+15	火山灰土	寒冷地	
2) 小 豆	ANK-553	乳	実・ 継	土 壌	播種後	⊕ g/a 20 ～ 30	全土壌	寒 地	
	SKH-01	水和	実・ 継	土 壌	播種後 ～出芽前	⊕ g/a 10～ 20	全土壌	寒 地	・イネ科, ツユ クサに効果が 劣る。
3) 菜 豆	ANK-553	乳	実	土 壌	播種後	⊕ g/a 20～ 30	全土壌	寒 地	
4) 落 花 生	NTN-80	水和	実	土 壌	播種後	⊕ g/a 30～ 500	全土壌	温暖地 以西	
	ANK-553	乳	実・ 継	土 壌	播種後	⊕ g/a 20～ 30	全土壌	温暖地 以西	
	B-3015-P	粒	実・ 継	土 壌	播種後	⊕ g/a 400 ～ 600	全土壌	温暖地 以西	
	NK-049-P	水和	実・ 継	土 壌	播種後	⊕ g/a 40～ 60	全土壌	温暖地 以西	
	プロメトリン ・アラクロール	乳	実	土 壌	マルチ前	⊕ g/a 20～30	全土壌	寒冷地	

区 分	薬 剤 名	剤型	判定	処理方法	処理時期	使用量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
落花生 (つづき)	プロメトリン・ アラクロール (つづき)	乳	実・ 継	土 壌	播種後	⊕ g/a 20～ 30	全土壌 〔砂土、 砂礫土 を除く〕	温暖地 以西	
	S D - 11831	微粒	実・ 継	土 壌	播種後	⊕ g/a 400 ～ 500	全土壌	温暖地 以西	
5) 甘 し ょ	B-3015・P	粒	実・ 継	土 壌	挿苗後	⊕ g/a 400 ～ 600	全土壌	暖 地	
	NTN-80	水和	実・ 継	土 壌	挿苗後	⊕ g/a 30～ 50	火山灰土	温暖地 以西	
6) とうもろこし	アトラジン FW 500	乳	実	土壌へ 茎葉	播種後～雑 草 2～3 葉期	⊕ g/a 10～ 20	全土壌	寒地～温 暖地	・イネ科雑草に はやや効果が 劣る。 ・25Lまで使 用可能、5L 以下の場合は 散布むらに注 意。
7) てん菜移植	HSW-4901	水和	実	茎 葉	移植活着後 雑草発生前	⊕ g/a 20～ 30	全土壌	寒 地	・非イオン系 展着剤加用。
	U-67	水和	実・ 継	土 壌	移植後 雑草発生前	⊕ g/a 25～ 30	全土壌	寒 地	
8) こんにゃく	バラコート	液	実	茎 葉	生育期	⊕ g/a 20～ 30	全土壌	寒冷地、 温暖地	・2年生以上。 ・葉面への散布 はさける。
	MCC	粒	実・ 継	土 壌	植付後、培 土後	⊕ g/a 400 ～ 600	全土壌	寒冷地、 温暖地	
	バラコート+ト リフルラリン	液 乳	実・ 継	茎葉兼土 壌	萌芽前	⊙ 20～30 + ⊕ 20～30 g/a	全土壌	寒冷地、 温暖地	・培土後できる だけ早めに。
9) さとうきび	NTN-70	水和	実・ 継	茎 葉	植付直後～ 雑草 2L	土壌:⊕ 30 茎葉:⊕ 10～20 g/a	全土壌	暖 地	